

地域情報（県別）

【茨城】「医療」「介護」「生活」の視点を持つ全国でも珍しい複合施設が水戸に-鈴木邦彦・医療法人博仁会理事長らに聞く◆Vol.1

2020年1月27日(月)配信 m3.com地域版

2019年11月、ユニークな施設が茨城県水戸市に開設された。医療と介護のハイブリッド型施設は少しずつ増えているが、それらに加えて地域交流を促し、就労支援まで行うところは全国的にも珍しい。「フロイデ水戸メディカルプラザ」を設けたのは、2018年まで日本医師会の常任理事を務めていた医療法人「博仁会」理事長の鈴木邦彦氏。施設の概要と特徴について、理事長の鈴木氏と施設長の鈴木明廣氏に聞いた。（2019年12月11日インタビュー、計3回連載の1回目）

▼第2回はこちら

▼第3回はこちら

——まずはフロイデ水戸メディカルプラザの概要とコンセプトをお聞かせください。

鈴木施設長 フロイデ水戸メディカルプラザは医療と介護のほか、地域交流や就労支援を含むさまざまな機能を持つ施設であり、私たちは「地域共生多機能拠点」と呼んでいます。

延べ床面積2230m²の3階建てで、1階に「フロイデクリニック水戸」、通所リハビリテーション「フロイデ水戸堀町デイケアセンター」、在宅医療に関する相談窓口「フロイデ地域包括ケアセンター水戸」、コミュニティカフェ「ミッテンヴァルト」を、2階に「フロイデ小規模多機能ホーム水戸堀町」（9部屋）と「フロイデメディカルフィットネスセンター水戸」を、3階に住宅型有料老人ホーム「フロイデアシストハウス水戸堀町」（20部屋）と地域交流スペース「グーデンターク」を備えています。現在は48人のスタッフが在籍しています。



フロイデ水戸メディカルプラザの外観

鈴木理事長 コンセプトは「健院」です。病気になったときに利用する「病院」に対し、フロイデ水戸メディカルプラザは健康なうちから気軽に利用できる施設にしたいと考えています。一般的に病院は病気のときしか来ない・来られない場所であり、仮に入院するとしても国からは在院日数を短くするよう言われていますから長くいづらい場所でもあります。高齢化と医療機関の機能分化によって病院ができることが限られる中、健康なうちから病気の予防と早期発見、治療、リハビリといった全体をフォローできる場所にしたいと開設しました。

カフェや地域交流スペース、フィットネスジムがあるので地域の方からすれば日ごろから利用しやすいでしょう。さらにこういった日常使いができる施設にクリニックが併設されているので、医療に対する距離感も心身ともに近くなるのではないのでしょうか。



鈴木邦彦理事長（右）と鈴木明廣施設長

——施設の内容を詳しく教えていただけますか。まずは1階にあるクリニックとデイケアセンター、コミュニティカフェ、在宅相談窓口について。

鈴木施設長 まずクリニックには内科と呼吸器内科の2人の医師が在籍し、月曜日から土曜日まで診療しています。2人の医師は必要に応じて在宅医療も行います。

デイケアセンターは午前と午後の部に分かれていて、定員はそれぞれ30人です。現在は日に12人ほどが通ってくれています。スタッフとして対応しているのは理学療法士と健康運動実践指導者。健康運動実践指導者とは文字通り、健康づくりのための運動を指導する人であり、講座を受講して試験に合格した人に与えられる民間資格です。

コミュニティカフェは日曜日と祝日以外は午前10時から午後5時まで営業していて、メニューの中には当施設に在籍する管理栄養士が考案したヘルシーなものもあります。管理栄養士はクリニックの患者さんに食事療法が必要な場合にも対応、アドバイスをしています。

当施設は就労移行支援事業と就労継続支援A型の事業も行っており、こちらのカフェとフィットネスジムがその拠点「フロイデ工房みと堀町」として機能しています。現在は障がい者3人が清掃や食器洗い、パソコン入力などの仕事をしています。

鈴木理事長 そして、フロイデ地域包括ケアセンター水戸では在宅医療に関するさまざまな相談に対応しています。こちらには在宅医療に関わる多職種が、つまりケアマネジャーや訪問看護師、訪問介護士、理学療法士が常駐。座席が指定されていない「フリーオフィス」になっていて、日によって誰がどこに座るか違います。在宅医療は多職種が密に連携することが重要ですから、こんな仕組みにしました。



コミュニティカフェ「ミッテンヴァルト」



在宅相談窓口「フロイデ地域包括ケアセンター水戸」

——カフェの併設、在宅専門窓口、就労支援事業とどれも珍しいですね。続いて2階の小規模多機能ホームとフィットネスジム、3階の住宅型有料老人ホームと地域交流スペースを案内していただけますか。

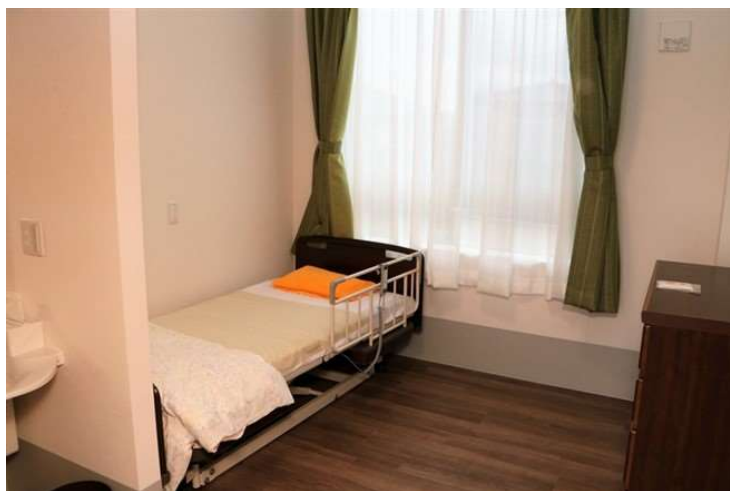
鈴木施設長 小規模多機能ホームは現在、18人に登録していただいています。住宅型有料老人ホームは12月9日で満床になりました。双方の大きな特徴は、先端的な機能を搭載したセンサーを各部屋の天井とベッドに設け、人的コストを減らしていることです。

私は介護福祉士でもあるので実感を持って言えるのですが、このセンサーによって大幅に負担が軽減しました。従来の介護は入居者の様子を確認するために2時間に1度、おむつを交換するために3時間に1度は部屋に行く必要がありました。しかし今ではセンサーが入居者の心拍数と呼吸数、眠りの深さ、ベッドに横になっているか離床しているかといった各種情報を感知し、グラフやイラスト、数字が職員の持つ端末に届きます。これによって利用者の状態が遠隔でも分かるため、人の動きを効率化できるのです。

フィットネスジムの機能と費用は民間とほぼ同様で、現在は14人が登録してくれています。クリニックを受診した患者さんが生活習慣病などによって運動療法を勧められた場合はすぐにごちらで実践できます。

地域交流スペースも仕組みに特徴があります。地域の困りごとを解決するためのボランティア「フロイデサポーター」に登録していただければ無料で利用することができるというもので、ボランティア活動1回につき1ポイントがたまり、20ポイントでカフェのランチやフィットネスの利用1回分が無料になる特典もあります。

ボランティア活動は強制ではなく任意であり、現在は施設の入居者の髪を乾かすなどの生活支援がメインです。ちょうど社会福祉協議会と話し合っているところで、今後は地域的な活動を増やしていきたいと考えています。



「フロイデ小規模多機能ホーム水戸堀町」の室内



フロイデメディカルフィットネスセンター水戸



地域交流スペース「グーデンターク」

◆鈴木 邦彦（すずき・くにひこ）氏

1980年秋田大学医学部卒。仙台市立病院、東北大学第三内科、国立水戸病院（現国立病院機構水戸医療センター）を経た後、1996年に志村大宮病院院長、1998年には医療法人博仁会理事長に就任。2010年から2018年まで日本医師会常任理事を務めた。

◆鈴木 明廣（すずき・あきひろ）氏

フロイデ水戸メディカルプラザ施設長。介護福祉士とケアマネジャーの資格も持つ。

【取材・文・撮影＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

